

狭山市史 通史編 1 目次

第一編 自然

第一章	生きている化石＝メタセコイア物語	3
第一節	メタセコイアとは	3
	新狭山運動公園をたずねて　メタセコイアの名づけ親　メタセコイアの系譜	
	現生メタセコイアの発見　生きている化石	
第二節	狭山のメタセコイア化石	6
	メタセコイア化石林の発見　メタセコイア化石林の調査	
	化石林を含む地層－仏子層－　笹井化石林付近の地質　大型植物化石	
	花粉化石分析の結果　化石林を含む地層の年代　日本のメタセコイア化石と古気候	
第二章	狭山にアケボノゾウがいたころ	21
第一節	ゾウの仲間たち	21
	アジアゾウとアフリカゾウ　ナウマンゾウとマンモス	
第二節	日本にもゾウがいた	25
	アケボノゾウへの系譜　アケボノゾウの特徴とその時代	
第三節	狭山のアケボノゾウ	29
	発見のきっかけ　笹井化石林調査団の発掘調査　埼玉県立自然史博物館の発掘調査	
	入間川周辺からみつかったゾウ化石	
第三章	関東ローム層が語る火山活動の歴史	45
第一節	狭山からみえる火山群	45
	西方の火山　北方の火山　いまの火山灰	
第二節	大地をおおう関東ローム	46
	火山から噴出されるもの　ロームの色とその変化　関東ロームの特徴	
	関東ローム（赤土）のなかの砂粒の正体を探る　関東地方の段丘とローム層	
	川がつくる段丘地形　高い（古い）段丘ほど厚いローム層がのる	
	狭山の段丘とローム層	
第三節	火山活動の歴史に迫る	57
	ローム層の研究から　火山活動の歴史に迫る	
第四章	狭山二〇〇万年の歴史を探る	59
第一節	狭山の地形の成り立ち	59
	関東平野の地形　狭山の段丘地形	
第二節	関東平野の生い立ち	61
	飯能礫層が堆積した時代（約二〇〇万年前）　更新世前期（百数十万年前ごろ）	
	仏子層の堆積した時代（約九〇万～七〇万年前）　ギュンツ・ミンデル間氷期	
	（七三万～五〇万年前）　ミンデル氷期（五〇万～四〇万年前）	
	ミンデル・リス間氷期（三七万～二〇万年前）　リス氷期（二〇万～一三万年前）	
	リス・ウルム間氷期（一三万～七万年前）　ウルム氷期（七万～一万年）	
第二編	原始・古代	
第一章	狭山のあけぼの	77
第一節	旧石器時代と狭山	77
	人類の出現　氷河期と動植物　関東ローム層と旧石器	
第二節	旧石器人の足跡	81
	遺跡の分布　生活の跡　道具と生活　石器群の編年	
第二章	縄文時代と狭山	89
第一節	縄文時代のあけぼのと環境	89
	気候の温暖化と縄文文化のはじまり　土器の出現　弓矢の使用　縄文海進と貝塚	
第二節	縄文土器と時期区分	93
	縄文土器編年と区分　草創期の土器　早期の土器　前期の土器　中期の土器	
	後期の土器　晩期の土器	
第三節	縄文時代の住居と集落	102
	定住生活のはじまりと住居　早期・前期の住居と集落　中期の住居と環状集落	
	後期・晩期の住居と集落　遺跡分布と生活領域	
第四節	縄文人の生活と知恵	108
	一年の暮らし　狩猟活動　魚撈活動　採集活動　縄文農耕　物資の交流	
第五節	縄文人と心	115
	縄文人の体　縄文人の装い　縄文人と祈り　縄文人と葬制　縄文文化の終わり	
第三章	弥生時代と古墳時代の狭山	123
第一節	弥生文化の東進	123
	稲作のはじまり　文化の波及　狭山周辺の遺跡　ムラでの生活　死後の世界	
第二節	古墳の出現	134
	古墳の出現とその広がり　古墳の種類と埋葬施設　埼玉古墳群と金錯銘鉄剣	
	市域とその周辺に残る古墳　上広瀬古墳群　笹井古墳群と稻荷山公園古墳群	
	カマド（竈）のある住居　市域とその周辺に残る集落跡	
第四章	律令制と武蔵国	149
第一節	律令制下の狭山周辺	149
	武蔵国の設置　武蔵国府　入間郡と郡衙　郡衙の所在地　入間郡の郷	
	土地制度と公民の負担　延喜式内社広瀬神社	
第二節	渡来人と高麗郡の設置	160
	渡来人の移住　高麗郡の設置　渡来人の活躍と狭山周辺	
第三節	寺院の建立	165
	仏教の伝来　地方寺院の建立　国分二寺の建立	
第四節	入間郡出身の人たち	171
	入間宿禰・物部直広成　大伴部直赤男	
第五節	古代の生産と入間道	174

	入間川左岸台地上の小鍛冶工房跡 東八木窯跡群と東金子窯跡群 七曲井・堀兼之井と入間道	
第六節	生活と文化----- 集落と住居跡・倉庫 多種多様な生活用具 文字資料 古代の墓	182
第五章 荘園と武蔵武士の誕生-----		191
第一節	公地公民制の崩壊-----	191
第二節	班田収授法から墾田永世私財法へ 勅旨田の設置 牧の設置 荘園の成立 武蔵国の治安悪化と平氏の台頭-----	196
第三節	地方政治の乱れと平氏の台頭 平氏の東国進出と平将門 武蔵武芝と興世王の紛争 平将門の乱 武蔵武士の発生と活躍-----	201
	源氏の東国進出 坂東八平氏と武蔵七党 大蔵館の戦い 保元・平治の乱と金子家忠	
第三編 中世		
第一章 鎌倉幕府の成立と武蔵国-----		211
第一節	源氏の挙兵-----	211
第二節	源頼朝の挙兵 源義仲の挙兵 義仲の敗死 鎌倉幕府の成立 清水冠者義高-----	217
第三節	清水冠者義高 入間河原と清水八幡宮 市内に残る義高伝承 市外に残る義高伝承 北条氏の実権掌握-----	229
第四節	執権政治の確立と承久の乱 執権政治から得宗専制政治へ 得宗専制政治の展開 武蔵武士の動向-----	234
	武蔵武士の動向 柏原太郎 比企氏と畠山氏の滅亡 河越氏の盛衰 金子氏の盛衰	
第二章 鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱-----		245
第一節	鎌倉幕府の滅亡-----	245
第二節	後醍醐天皇の討幕計画 新田義貞の鎌倉攻撃 新田義貞と入間川・堀金 加治家貞の戦死 建武政権と南北朝の内乱-----	252
第三節	建武政権の成立 中先代の乱 南北朝内乱の展開 観応の擾乱と羽祢蔵の合戦 足利基氏と入間川御所-----	258
第四節	新田義興の挙兵と武蔵野合戦 足利基氏の入間川滞陣 入間川御所 新田義興の謀殺 鎌倉公方と関東管領-----	266
第五節	鎌倉府と鎌倉公方 関東管領と執事 苦林野合戦 平一揆の蜂起と河越氏の滅亡 上杉四家 上杉禪秀の乱 永享の乱と結城合戦 鎌倉街道と入間川宿-----	278
	鎌倉街道 入間川宿の繁栄 郷村の成立	
第三章 戦国の争乱から北条氏の支配へ-----		287
第一節	古河公方と上杉氏の確執-----	287
第二節	古河公方足利成氏 武蔵をめぐる攻防戦 長尾景春と太田道灌 山内上杉氏と扇谷上杉氏の対立 北条氏の武蔵支配-----	295
第三節	北条氏綱の武蔵進出 三ッ木原の合戦 北条氏康と河越合戦 城山砦 北条氏の領国経営 『小田原衆所領役帳』 上杉謙信の関東出陣と北条氏-----	308
第四節	上杉謙信の関東出陣 三田氏の滅亡 河越城と松山城をめぐる攻防戦 北条氏照と滝山領の形成 北条氏の滅亡-----	318
	天下統一への動きと北条氏 豊臣秀吉と北条氏 北条氏の臨戦体制 滝山領内の臨戦体制 豊臣秀吉の関東出陣 小田原落城と北条氏の滅亡	
第四章 柏原の鍛冶師と鋳物師-----		329
第一節	柏原の鍛冶師-----	329
第二節	鎗鍛冶増田大水正金 刀鍛冶長谷川家 柏原鍛冶と砂鉄 柏原の鋳物師-----	336
	神田鋳物師 市内に残る作品群 市外に残る作品群 神田鋳物師の消長	
第五章 中世の寺社と文化-----		349
第一節	寺院と神社-----	349
第二節	末法思想と新仏教の誕生 中世創建と考えられる寺院 中世創建と考えられる神社 修験道と笹井観音堂-----	362
第三節	修験道 笹井観音堂 笹井観音堂とその配下 小田原北条氏と笹井観音堂 板碑の造立-----	370
第四節	板碑の造立 主尊と偈・真言 市域の板碑とその特徴 板碑の消滅 逆言葉と逆川-----	384
	逆言葉・逆川と『廻国雑記』 狂言『入間川』 逆言葉と逆川の本質	
第四編 近世		
第一章 近世における狭山地方-----		391
第一節	市域の各村の状況-----	391
	市域の全体的状況 入間川沿いの村々の状況 入間川村の状況 皆畑村の状況	
第二章 領主支配の成立と状況-----		407
第一節	領地の概況と江戸時代以前の状況-----	407
第二節	領地の概況 中世末の領地支配 領主編成の展開-----	408

	村別の領主の構成	時代別の展開	
第三節	川越藩の支配		418
	酒井家	堀田家	松平(大河内)家
	松平(松井)家	川越藩の支配	柳沢家
			秋元家
			松平(越前)家
第四節	旗本領主の支配		432
	旗本領の状況	主な旗本領主について	旗本領支配の問題
第三章	町と村の成立		449
第一節	入間川町の成立		449
	入間川町の成立	町場としての状況	
第二節	入間川沿いの古村の成立		455
	中世末期の村の状況	柏原村の展開	笹井村の展開
第三節	新田村々の成立		471
	武蔵野の開発政策	川越藩の新田政策	当市域の新田村の成立
	新田開発人の問題	入村農民の性格	入会地の争論
	用水をめぐる争論	寺院をめぐる対立	村境をめぐる争論
第四節	新田村々の状況		491
	堀兼村の状況	水野村の状況	
第四章	町と村の状況		501
第一節	村の概況		501
	村々の成立と概況		
第二節	村の支配体制		506
	相給支配の問題	村役人の問題	村方騒動の展開
	土地をめぐる問題	村民の構成	用水の問題
	川沿い村の水問題	入会地・秣場をめぐる問題	五人組の問題
	村内の生活組織	村の生活規制	部落支配の問題
第五章	交通と助郷		641
第一節	陸上交通をめぐる問題		641
	交通の概要	日光道の人馬役問題	中山道・東海道の加助郷の負担
第二節	川の交通をめぐる問題		655
	筏川下げをめぐる争論		
第三節	渡船場をめぐる問題		659
	渡船場をめぐる争論		
第六章	鷹場と農民生活		663
第一節	鷹場制度の展開		663
	鷹場制度の由来	鷹場の運用	
第二節	狭山市域の鷹場		665
	鷹場の設定	鷹場村々の支配	鷹場の負担
第七章	産業の展開		681
第一節	地域経済の展開		681
	諸産業の展開		
第二節	市域の製茶業		689
	狭山茶業の展開	市域の製茶業	
第三節	織物業の展開		700
	織物業の発展	市域の織物生産	藍玉の生産
第四節	酒造業の展開		716
	関東の酒造業の状況	市域の酒造業	
第五節	水車稼ぎの展開		719
	水車稼ぎの問題	水車経営の内容と引水をめぐる争論	
第六節	入間川村の状況		725
	入間川村の状況	入間川村の市	
第七節	「豪商」綿貫家の問題		737
	「豪商」綿貫家	綿貫家の経済活動	
第八章	農村の変動		751
第一節	中後期の農村の状況		751
	農村の変化		
第二節	市域の農村の動向		753
	農村の状況	市域の村々の人口状況	市域の村々の土地状況
第三節	市域の農民の状況		782
	農民層の構成		
第九章	領主支配の再編		811
第一節	幕藩体制の変質		811
	領主の財政困窮		
第二節	川越藩政の展開		813
	秋元藩政の展開	松平藩政の展開	松平藩政の問題
第三節	旗本の財政改革		830
	旗本の財政問題	旗本細井氏の財政改革	
第四節	領主改革と市域の村々		839
	村々をめぐる諸問題	農民生活の規制	農民の救済策
		農民の対応	
第一〇章	社会問題の展開		855
第一節	百姓一揆の展開		855
	社会体制の変動	明和の百姓一揆	一揆の背景
	一揆の処分	狭山市域の動向	一揆の原因
			一揆の展開
第二節	村方の動向		870
	農民訴願の展開	村方騒動の展開	村間出入りの展開
			村の生活をめぐる事件

第三節	災害の多発	881
	飢饉の問題 洪水の被害 干ばつの被害 火災の問題	
第一章	幕末の動向	891
第一節	幕末期の政治・経済状況	891
	開港と政治の変動 貿易の影響	
第二節	政局の動向と市域の人々	894
	外国船対策の展開 ペリー来航後の問題 川越藩の国替え問題	
	当地域の尊攘運動家 最後の川越藩主	
第三節	諸税負担の過重	902
	外国船対策の負担 助郷負担の加重 川越藩の前橋移封の負担	
第四節	兵賦と農兵の問題	910
	兵役の負担 農兵取り立てと反対運動	
第五節	経済変動とその影響	916
	諸物価の変動 貿易開始と当市域	
第六節	世相と村々の状況	925
	幕末の世情 災害の多発	
第七節	農民の動向	928
	農民一揆の展開 武州世直し一揆 一揆の背景 村役人をめぐる動向	
	村方騒動の展開	
第二章	江戸時代の文化	943
第一節	宗教の状況	943
	神社・寺院の概況 神社の構成 寺院の構成	
第二節	教育の展開	1006
	教育の普及 寺子屋の状況	

写真・図表目次

第一編	自然	
第一章	生きている化石＝メタセコイア物語	
1-1	メタセコイア	3
1-2	アケボノスギ <i>Metasequoia</i> (A) ・セコイア <i>Sequoia</i> (B) ・ ヌマスギ <i>Taxodium</i> (c) の相違を示す模式図	4
1-3	メタセコイア化石林の産出地	7
1-4	発見当時のメタセコイア化石株	7
1-5	発見当時のメタセコイア株の分布図 (昭和五十年二月)	8
1-6	昭和五十五年十二月現在のメタセコイア株の分布図	9
1-7	(a) 発掘されたメタセコイア化石株	10
1-7	(b) 今宿遺跡公園に展示されているメタセコイア化石株	10
1-8	関東平野西縁丘陵南部の地質図	11
1-9	仏子層総合模式柱状図	11
1-10	加治丘陵と多摩丘陵の層序対比	12
1-11	牛沢貝層産の貝化石一覧	12
1-12	笹井ダム下流の仏子層の模式層序	13
1-13	笹井から産出した大型植物化石	14
1-14	仏子層から産出する大型植物化石	15
1-15	仏子層から産出する花粉化石	17
第二章	狭山にアケボノゾウがいたころ	
1-16	アジアゾウ (上) とアフリカゾウ (下)	22
1-17	(a) 関東地方から産するゾウ化石	23
1-17	(b) 関東地方のゾウ化石産地	24
1-18	ゾウの仲間の進化	26
1-19	アカシゾウ (アケボノゾウの近縁種)	28
1-20	アケボノゾウの足跡化石	28
1-21	アケボノゾウ化石の産地	29
1-22	右側上顎第二大臼歯	30
1-23	昭和五十年の発掘化石リスト	31
1-24	アケボノゾウ化石の産状図	32
1-25	(a) 脊椎骨	33
1-25	(b) 脊椎骨	34
1-25	(c) 左肋骨	35
1-25	(d) 右肋骨	36
1-25	(e) 左肩甲骨・右橈骨	37
1-25	(f) 右上腕骨	38
1-25	(g) 右尺骨	39
1-25	(h) 左大腿骨・右大腿骨頭・右腓骨	40
1-26	昭和六十年の発掘化石リスト	41
1-27	入間川周辺のゾウ化石産出地点	42
第三章	関東ローム層が語る火山活動の歴史	
1-28	狭山市からみた富士山	46
1-29	(a) 立川ローム (AT層準)	49
1-29	(b) 東京軽石層 (武蔵野ローム層中の鍵層)	49
1-29	(c) Pm-1 軽石層 (下末吉ローム層中の鍵層)	49
1-29	(d) 多摩Iローム	49
1-30	(a) 関東平野西部の地形面区分図・地質図	50

1-30	(b) 関東ローム層と段丘の関係	50
1-31	狭山の段丘とローム層の関係	53
1-32	模式地形・地質断面図	54
1-33	ローム層の鉱物組成	55
1-34	(a) 中央公民館駐車場でみられた下末吉層と下末吉ローム層	55
1-34	(b) 鶉ノ木でみられた礫層	56
1-34	(c) 中央公民館駐車場でみられた関東ローム層	56
1-35	後期第四紀(過去一二・五万年間)における火山活動の歴史	57
第四章	狭山二〇〇万年の歴史を探る	
1-36	関東地方地形区分図	60
1-37	関東平野西縁(飯能～青梅付近)における南多摩層群基底(飯能礫層基底)の不整合部付近の構造図	62
1-38	古荒川の流路	63
1-39	第四紀編年表と狭山の生い立ち	71
1-40	それぞれの時期における海陸の分布図(古地理図)	73
第二編	原始・古代	
第一章	狭山のあけぼの	
2-1	発掘中の西久保遺跡	78
2-2	ウルム氷期の日本列島	79
2-3	狭山市内の旧石器時代の遺跡	82
2-4	西久保遺跡第三ユニットの石器出土状態	83
2-5	ナイフ形石器(西久保遺跡)	85
2-6	削器(西久保遺跡)	85
2-7	ナイフ形石器の出土状態(西久保遺跡)	87
第二章	縄文時代と狭山	
2-8	弓矢に取りつけた石鏃(富士見北遺跡)	90
2-9	縄文海進の推定図	91
2-10	縄文土器の編年表	94
2-11	有舌尖頭器(下双木遺跡)	96
2-12	黒浜式土器(揚櫃木遺跡)	98
2-13	勝坂式土器(宮地遺跡)	99
2-14	加曾利E式土器(宮地遺跡)	99
2-15	堀之内式土器(高根遺跡)(狭山市教育委員会提供)	101
2-16	復元された竪穴住居(富士見市・水子貝塚)	103
2-17	野外炉跡(今宿遺跡)	104
2-18	前期の竪穴住居跡(揚櫃木遺跡)	104
2-19	中期の竪穴住居跡と石組埋甕炉(宮地遺跡)	105
2-20	宮地遺跡の環状集落	106
2-21	矢に取りつけられた石鏃(宮地遺跡)	110
2-22	石錘(宮原遺跡)	111
2-23	石皿(左)と磨石(右)(宮地遺跡)	112
2-24	曾利式土器(宮地遺跡)	114
2-25	土器の把手に表された縄文人の顔(宮地遺跡)	115
2-26	耳栓(宮地遺跡)	117
2-27	ペンダント状石製品(宮原遺跡)	117
2-28	土偶(宮地遺跡)(入間市・戸門秀雄氏提供)	118
2-29	石棒(宮地遺跡)(入間市・戸門秀雄氏提供)	118
2-30	敷石住居(宮地遺跡)	119
2-31	屈葬(富士見市・水子貝塚)(富士見市教育委員会提供)	120
2-32	甕棺葬(入間市・坂東山遺跡)(県立埋蔵文化財センター提供)	121
第三章	弥生時代と古墳時代の狭山	
2-33	県内の弥生土器編年表	126
2-34	炭化米(熊谷市・池上遺跡)(県立さきたま資料館提供)	127
2-35	霞ヶ関遺跡(川越市)	128
2-36	土器の出土状態(所沢市・東の上遺跡)(所沢市教育委員会提供)	129
2-37	方形周溝墓の実測図(所沢市・宮前遺跡)(所沢市教育委員会提供)	129
2-38	弥生土器(所沢市・東の上遺跡・日向遺跡)(所沢市教育委員会提供)	131
2-39	石庖丁(所沢市・日向遺跡)(所沢市教育委員会提供)	131
2-40	埼玉古墳群の全景(行田市)(県立さきたま資料館提供)	135
2-41	金錯銘鉄剣(行田市・稻荷山古墳)(県立さきたま資料館提供)	137
2-42	市域とその周辺古墳群	138
2-43	上広瀬古墳群位置図	139
2-44	第六号墳出土の直刀・鏢・金環(上広瀬古墳群)(狭山市教育委員会提供)	141
2-45	発掘中の第八号墳(上広瀬古墳群)	142
2-46	第八号墳出土の切子玉・管玉・小玉(上広瀬古墳群)(狭山市教育委員会提供)	142
2-47	第九号墳出土のガラス製小玉(上広瀬古墳群)(狭山市教育委員会提供)	143
2-48	第八号墳出土の鬼高期の土師器坏(上広瀬古墳群)(狭山市教育委員会提供)	143
2-49	第一号住居跡の実測図(滝祇園遺跡)	146
2-50	第一号住居跡出土の土師器坏・甕・甌・壺(滝祇園遺跡)	147
第四章	律令制と武蔵国	
2-51	郡の格付と郡司員数表	152
2-52	武蔵国の郡域図	152
2-53	「郡厨」の墨書がある須恵器坏(宮地遺跡)	154
2-54	条里制による地割り	156

2-55	大宝律令下の農民の負担	157
2-56	広瀬神社	159
2-57	渡来人の移住先と人数	161
2-58	高麗神社（日高市）	163
2-59	福信の自署	164
2-60	県内の古代寺院跡	167
2-61	勝呂廃寺遺構（坂戸市・坂戸市教育委員会提供）	169
2-62	武蔵国分僧寺跡（東京都国分寺市）	170
2-63	小鍛冶工房と推定される住居跡（上）と工房跡（下）（今宿遺跡）	175
2-64	ふいごの羽口（宮地遺跡）	175
2-65	八坂前窯跡（入間市・入間市教育委員会提供）	177
2-66	瓦塔の破片（東八木窯跡群）	177
2-67	発掘された七曲井の井筒部	179
2-68	堀兼之井	179
2-69	入間道と「ほりかねの井」の位置図	180
2-70	奈良・平安時代の竪穴住居跡（揚榎木遺跡）	183
2-71	掘立柱建物跡（揚榎木遺跡）	183
2-72	土師器甕（稲荷上遺跡）	185
2-73	土師器甕（揚榎木遺跡）	185
2-74	須恵器坏（揚榎木遺跡）	185
2-75	緑釉陶器（揚榎木遺跡）	186
2-76	鋤先（左）と鎌（右）（揚榎木遺跡）	186
2-77	鉄鏃（今宿遺跡）	187
2-78	和同開珎（揚榎木遺跡）	188
2-79	「三宅」の墨書がある須恵器坏（今宿遺跡）	189
2-80	土壙墓（揚榎木遺跡）	190
第五章	荘園と武蔵武士の誕生	
2-81	武蔵国の牧と初期荘園	194
2-82	桓武平氏略系図	198
2-83	平将門を祀る神田明神（東京都千代田区）	200
2-84	清和源氏略系図	202
2-85	坂東八平氏略系図	204
2-86	武蔵七党の分布図	205
2-87	大蔵館跡（比企郡嵐山町）	206
2-88	金子氏一族の墓（入間市・瑞泉院）	207
第三編	中世	
第一章	鎌倉幕府の成立と武蔵国	
3-1	蛭ヶ小島（静岡県田方郡菟山町）	212
3-2	白鳥河原（長野県小県郡東部町）	213
3-3	源義仲の墓（滋賀県大津市）	214
3-4	鎌倉幕府（大蔵幕府）跡（神奈川県鎌倉市）	215
3-5	鎌倉幕府の職制	216
3-6	八丁の渡し	219
3-7	清水八幡宮	220
3-8	清水八幡宮の石祠	221
3-9	影隠し地蔵	222
3-10	清水駅跡の碑（長野県小諸市）	224
3-11	清水の地名のもととなった槻井泉神社（長野県松本市）	225
3-12	志水の里（長野県木曾郡木曾福島町）	226
3-13	源頼朝の墓（神奈川県鎌倉市）	229
3-14	源氏略系図	230
3-15	北条氏略系図	232
3-16	秩父平氏略系図	235
3-17	河越館跡（川越市）	236
3-18	城山砦跡の遠景	238
3-19	比企氏一族の墓（神奈川県鎌倉市）	239
3-20	畠山重忠像（比企郡嵐山町）	240
3-21	河越氏略系図	241
3-22	鶴庄の現況（兵庫県揖保郡太子町）	243
3-23	新居郷の現況（愛媛県新居浜市）	243
第二章	鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱	
3-24	生品明神（群馬県新田郡新田町）	246
3-25	小手指原古戦場の碑（所沢市）	247
3-26	北条高時自害の地（神奈川県鎌倉市）	248
3-27	八幡神社	249
3-28	円照寺の板碑（入間市・入間市教育委員会提供）	251
3-29	女影原古戦場の跡（日高市）	254
3-30	南朝（吉野朝）宮跡（奈良県吉野郡吉野町）	255
3-31	高麗経澄軍忠状（日高市・町田純一家蔵）	257
3-32	足利基氏像（神奈川県鎌倉市・瑞泉寺蔵）	260
3-33	入間川御所伝承地の位置図	262
3-34	徳林寺	264
3-35	矢口の渡しの現況（東京都大田区）	266
3-36	鎌倉府の職制	266

3-37	足利氏略系図	267
3-38	鎌倉公方邸の跡（神奈川県鎌倉市）	268
3-39	苦林野古戦場の現況（入間郡毛呂山町）	270
3-40	足利基氏の墓（神奈川県鎌倉市・瑞泉寺）	271
3-41	上杉氏略系図	273
3-42	上杉氏憲（禅秀）邸の跡（神奈川県鎌倉市）	274
3-43	高安寺（東京都府中市）	277
3-44	市域付近を通る鎌倉街道	279
3-45	加佐志に残る鎌倉街道の遺構	280
3-46	中央公民館出土の古銭一覧表	283
3-47	「奥留郷」と刻まれた鰐口（梅宮神社蔵）	285
第三章	戦国の争乱から北条氏の支配へ	
3-48	大袋原の現況（川崎市）	288
3-49	伝堀越御所の跡（静岡県田方郡菫山町）	289
3-50	長尾氏略系図	290
3-51	鉢形城跡の遠景（大里郡寄居町）	291
3-52	太田氏略系図	291
3-53	太田道灌像（川崎市）	292
3-54	足利茶々丸の墓（静岡県田方郡菫山町）	293
3-55	普濟寺（東京都立川市）	294
3-56	北条氏略系図	295
3-57	三ッ木原古戦場の跡	297
3-58	河越城跡（川崎市）	298
3-59	城山砦跡の概略図	301
3-60	城山砦跡	302
3-61	市域付近における北条氏の検地	304
3-62	入間川宿の諸役免除を認めた北条氏印判状（宝林寺文書・青梅市立郷土博物館提供）	305
3-63	北条氏の衆別知行高の比較	307
3-64	鶴岡八幡宮（神奈川県鎌倉市）	309
3-65	松山城跡の遠景（比企郡吉見町）	311
3-66	滝山城跡の遠景（東京都八王子市）	313
3-67	北条氏照の発給文書一覧表	314
3-68	名胡桃城跡（群馬県利根郡月夜野町）	320
3-69	笹井観音堂配下の山伏参戦を命じた北条氏照判物（笹井良勝家蔵）	324
3-70	小田原城の攻防図	325
3-71	豊臣秀吉の禁制（所沢市・中氷川神社蔵）（所沢市教育委員会提供）	327
3-72	菫山城跡（静岡県田方郡菫山町）	328
3-73	北条氏照の墓（東京都八王子市）	328
第四章	柏原の鍛冶師と鋳物師	
3-74	増田正金五〇〇年記念碑	330
3-75	増田大水正金作の鎗（増田順一家蔵）	330
3-76	増田家金山神社の御正体（増田順一家蔵）	331
3-77	柏原鍛冶にあてた北条氏照印判状（入間市・新井巳代二家蔵）	331
3-78	長谷川家剣明神社の御正体（長谷川文皓家蔵）	334
3-79	入間砂鉄と鎌倉極楽寺砂鉄の成分比較	335
3-80	「とりべ」状容器	336
3-81	白鬚神社の御正体（柏原・白鬚神社蔵）	338
3-82	白鬚神社の御正体（柏原・白鬚神社蔵）	338
3-83	市内に残る神田鋳物師の作品	339
3-84	笹井観音堂本尊の十一面観世音菩薩立像	340
3-85	市内に残るその他の鋳物作品	341
3-86	市外に残る神田鋳物師の作品	343
3-87	八王寺（竹寺）の御正体（飯能市・八王寺蔵）	344
第五章	中世の寺社と文化	
3-88	中世の創建と考えられる市内の寺院	350
3-89	金剛院の木造地藏菩薩立像	353
3-90	明光寺にあてられた徳川家康黒印状（明光寺蔵）	354
3-91	慈眼寺の木造阿弥陀如来立像	355
3-92	中世の創建と考えられる市内の神社	358
3-93	入間野神社の御神体	360
3-94	柏原の白鬚神社の御正体	361
3-95	役小角像（笹井観音堂蔵）	362
3-96	聖護院（京都市左京区）	363
3-97	笹井観音堂あての乗々院大僧正奉書（笹井良勝家蔵）	364
3-98	笹井観音堂	365
3-99	笹井観音堂配下の寺院	366
3-100	笹井観音堂の年行事職を安堵した北条氏照判物（笹井良勝家蔵）	369
3-101	板碑の模式図	371
3-102	種子別・地区別にみた市内の板碑	372
3-103	板碑に刻まれる主な種子	373
3-104	「一切有為法」の偈を刻んだ板碑	375
3-105	「光明真言」を刻んだ板碑	376
3-106	文永九年銘の板碑	377
3-107	市域の板碑造立の推移	377

3-108	嘉元三年銘の大型板碑	378
3-109	法名と逆修を刻んだ板碑	379
3-110	十三仏を刻んだ板碑	380
3-111	阿弥陀如来を線刻した月待供養板碑	380
3-112	阿弥陀如来を線刻した申待供養板碑	381
3-113	狂言『入間川』	386
第四編 近世		
第一章 近世における狭山地方		
4- 1	江戸時代後期の市域の状況	392
4- 2	根岸村の土地構成	398
4- 3	堀兼村明細帳（明和五年）（宮沢喜一家蔵）	401
4- 4	水野村明細帳（寛延二年）（大谷秀雄家蔵）	404
第二章 領主支配の成立と状況		
4- 5	川越藩の一村支配の村	409
4- 6	一給支配に一部変更のあった村	410
4- 7	相給支配の村	413
4- 8	多給支配の村	414
4- 9	歴代の川越藩主	419
4-10	酒井家	420
4-11	堀田家	421
4-12	松平（大河内）家	422
4-13	松平信綱の墓（新座市・平林寺）	423
4-14	柳沢家	424
4-15	秋元家	426
4-16	松平（越前）家	427
4-17	松平（松井）家	428
4-18	市域の旗本領知状況（幕末期）	433
4-19	市域旗本の知行階層構成	434
4-20	旗本の知行形態・階層（安永年間）	435
4-21	武蔵国の旗本とその階層（正保年間）	436
4-22	埼玉県域の旗本の知行階層構成（幕末期）	437
4-23	旗本の市域村での知行構成	438
4-24	市域旗本の相給数調べ	438
4-25	元禄期蔵米地方直し幕臣団の知行地分布	439
4-26	元禄期郡別よりみた幕臣団知行延数	441
4-27	天保初年旗本知行所の郡別村数	442
4-28	小笠原家墓地（天岑寺）	443
4-29	土屋氏により開かれた宗源寺	445
4-30	アメリカ派遣決定を伝える書状（松井正雄家蔵）	446
4-31	旗本新見氏よりの拝領品（松井正雄家蔵）	448
第三章 町と村の成立		
4-32	（a）水田所有状況（明治五年）	451
4-32	（b）畑地所有状況（明治五年）	451
4-33	市神として信仰を集めた大鷲大神	454
4-34	現存する市域最古の検地帳（天正十九年）（長谷川文皓家蔵）	456
4-35	天正十九年の検地帳（残冊）からみた柏原村の状況	457
4-36	元和七年の検地帳にみえる柏原村分付主と分付百姓数	458
4-37	柏原村の階層構成（元和七年）	466
4-38	笹井村の階層構成	469
4-39	郡別の石高・村数の増加	472
4-40	武蔵野台地を中心とした村落の年代別分布図	473
4-41	元禄期以前に開発された新田	474
4-42	元禄期以後に開発された新田	476
4-43	野火止用水（新座市）	481
4-44	寛文四年の川越藩領高反別郡別内訳	482
4-45	用水利用に関して水野村が入曽村にあてた証文（元禄十二年）（金剛院蔵）	490
4-46	堀兼村の階層構成（寛文元年）	492
4-47	堀兼村の土地構成と年貢率（寛文二年）	492
4-48	水野村の石高変遷	494
4-49	水野村の土地構成	495
4-50	水野村農民の持地構成（寛文九年）	496
4-51	水野村農民の持高構成（寛文九年）	497
4-52	貞享三年に造立された水野村の地蔵尊	499
第四章 町と村の状況		
4-53	近世前期における村落と石高の推移	502
4-54	検地時期別にみた村の成立	503
4-55	市域村々の石高規模	504
4-56	武蔵国の村高の比較表	505
4-57	市域村々の土地規模	506
4-58	市域村々の人口規模	506
4-59	長屋門のある名主宅（長谷川文皓家蔵）	525
4-60	上広瀬村の年貢割付状（右側は書き出し部分、左側は末尾付近）	531
4-61	田畑租率の変遷	532
4-62	『武蔵田園簿』にみる小物成記載村数	534

4-63	市域村々の土地構成	567
4-64	柏原村の土地構成（明和元年）	568
4-65	上広瀬村の土地構成（宝暦五年）	569
4-66	下奥富村の土地構成（宝永二年）	569
4-67	堀兼村の土地構成（明和五年）	570
4-68	南入曾村の土地構成（享保三年）	570
4-69	水野村の土地構成（寛延二年）	570
4-70	市域村々の土地の状況	572
4-71	質地証文（長谷川文皓家蔵）	575
4-72	市域村々の人口構成	578
4-73	青柳村の家族構成（享和四年）	583
4-74	青柳村の年齢構成（享和四年）	583
4-75	笹井村の家族構成（宝暦五年）	585
4-76	笹井村の年齢構成（宝暦五年）	585
4-77	人別送り状（斎藤勝元家蔵）	588
4-78	安永期の用水争論証文（金剛院蔵）	593
4-79	柏原新田を流れる用水	599
4-80	下広瀬に残る証文塚	604
4-81	堀兼村の五人組帳（元禄七年）（宮沢喜一家蔵）	606
4-82	鷹番に関する高札（松井正雄家蔵）	625
4-83	文化・文政期における賤民の概況	626
4-84	忍領における村数・家数人口構成	626
4-85	小頭以下組織図	627
4-86	A村の部落の人的構成（安政元年）	632
4-87	A村の部落の持高構成（安政元年）	632
4-88	高麗郡内の一部落所持面積表（元禄十二年）	633
4-89	鼻緒騒動部落側罪状別人数一覧表	636
第五章	交通と助郷	
4-90	日光道の経路	643
4-91	日光火の番道中駄賃表	645
4-92	根岸村への助郷を命じた幕府定書（寛文九年）（山崎忠男家蔵）	648
4-93	根岸村と助郷村の人馬負担割合（天保二～五年）	650
4-94	根岸村の加助郷として新たに加わった村の状況（天保十二年）	651
4-95	高萩村・下高萩村と加宿村の負担割合（天保十三年）	652
第六章	鷹場と農民生活	
4-96	尾張家鷹場榜示石（宮沢喜一家蔵）	666
4-97	鷹場役人の系統図	666
4-98	鷹場取締仰渡御請証文（天保十二年）（宮沢喜一家蔵）	667
第七章	産業の展開	
4-99	南入曾村の主要作物（明治三年）	684
4-100	水田を持つ村々の貢租・物産・民業	685
4-101	皆畑の村々の貢租・物産・民業	687
4-102	入間・高麗郡内の村々の貢租・物産	688
4-103	諸国茶産品書上（慶応三年）	698
4-104	安永期武州・上州絹市の絹織物等取引高	702
4-105	水富村公業館繭品評会審査表（明治二十三年）	709
4-106	赤間川の水車業と赤間川断面図	720
4-107	入間川町略図（明治三十五年）	727
4-108	入間川町の商業の状況（明治三十五年）	729
4-109	近世前期の市場	732
4-110	近世後期の市と主要取引商品	733
4-111	入間川村の戸別田畑所有状況（上段田・下段畑）	736
4-112	綿貫家先祖の墓	738
4-113	綿貫家代々の墓碑銘	739
4-114	「卯歳店卸勘定帳」にみる綿貫家の家計支出	746
4-115	綿貫家の母屋（明治十年ごろ）	749
第八章	農村の変動	
4-116	関東・東北地方の国別人口変遷	754
4-117	秩父郡大野村の戸数・人口の変遷	755
4-118	埼玉郡粕壁宿の戸数・人口の変遷	755
4-119	村明細帳と『武蔵国郡村誌』からみた人口変遷	756
4-120	村明細帳と『武蔵国郡村誌』からみた土地状況	775
4-121	北入曾村茂右衛門組の農民構成（安政五年）	782
4-122	青柳村の農民構成（享和四年）	783
4-123	下奥富村の農民構成（文久三年）	784
4-124	柏原村の農民構成（慶応四年）	785
4-125	入間郡上寺山村階層表	787
4-126	入間郡久下戸村の階層構成	787
4-127	村明細帳にみる畑作物と肥料	794
4-128	新河岸問屋蔦屋の肥料販売先村々	796
4-129	新河岸問屋蔦屋の肥料販売先	797
4-130	柏原村の農間余業調査（文久二年）	804
4-131	農間余業調査の業種（天保十四年）	805
4-132	幡羅郡妻沼村組合諸職人の分布（安政四年）	807

第九章	領主支配の再編	
4-133	江戸中後期の歴代川越藩主	815
4-134	岩田彦助により建てられた石碑	816
4-135	秋元氏家中引米（寛保二年）	819
4-136	秋元氏家臣物成等引率	819
4-137	秋元氏家臣山形引越割合	821
4-138	松平（越前）氏三領の実収高比較	824
4-139	松平（越前）氏家臣召出表	826
4-140	松平（越前）氏役付表（文化四年）	827
4-141	細井氏知行所年貢高一覧（天保十年）	832
4-142	細井氏支出予定金内訳（天保十年）	833
4-143	細井氏村方引請借入金返済予定内訳（天保十年）	833
4-144	細井氏江戸御直談返済予定内訳（天保十年）	834
4-145	細井氏月々暮方賄計画（天保十年）	835
4-146	細井氏月々暮方賄計画（安政五年）	836
第一〇章	社会問題の展開	
4-147	関東における百姓一揆・村方騒動件数表	857
4-148	天明年間の関東八か国における一揆	858
4-149	宿駅別増助郷指定村数及び分布	861
4-150	伝馬騒動打ちこわし対象者一覧	863
4-151	伝馬騒動処罰者分布一覧	867
4-152	追放刑以上の百姓処罰者一覧	868
4-153	幕府役人処罰者一覧	869
4-154	三味線使用についての詫状（文政六年）（増田純子家蔵）	880
4-155	天明の飢饉に対する柏原村連判帳（天明六年）（長谷川文皓家蔵）	883
4-156	干ばつに対する柏原村申し合わせ状（文政四年）（長谷川文皓家蔵）	888
第十一章	幕末の動向	
4-157	川越藩相州陣屋詰人数	896
4-158	品川台場築造献金状況	903
4-159	秩父郡上名栗村御用金一覧（嘉永六年～万延元年）	904
4-160	秩父郡上名栗村御進発献金一覧（慶応元年）	904
4-161	農兵歎願委細記（慶応二年）（志村文子家蔵）	912
4-162	農兵取り立てに反対した村	915
4-163	各港貿易価額の比率	917
4-164	主要輸出品目比率	917
4-165	主要輸入品目比率	917
4-166	幕末の江戸諸品相場の変動	920
4-167	幕末の江戸職人手間賃の変動	920
4-168	幕末の足利町における物価・料金	920
4-169	開港前後の生糸及び小伯帯地の価格動向	921
4-170	開港前後の下野國小俣村の米価推移	922
4-171	慶応期の農民一揆	930
4-172	幕末期の農民一揆・都市騒擾・村方騒動	930
4-173	武州世直し一揆展開図	933
4-174	打ちこわしで傷つけられた柱	935
一二章	江戸時代の文化	
4-175	市域村々の寺社の概況（一）	944
4-176	市域村々の寺社の概況（二）	951
4-177	社号別にみた明治初期の神社	979
4-178	笹井観音堂の人的構成	999
4-179	時期別にみた寺子屋所在数	1008
4-180	市町村別にみた寺子屋所在村率	1009
4-181	時代別にみた寺子屋数	1011
4-182	市域の寺子屋	1012
4-183	郡別にみた師匠数	1021
4-184	身分別にみた師匠数	1021
4-185	師匠の身分別にみた寺子屋数	1022
4-186	寺子屋の寺子数による比較	1022
4-187	県内の寺子屋教科目表	1023
4-188	県内の現存往来物郡別一覧	1024